

気球でへりの騒音計測

大樹で国内初 上空200メートルに係留

JAXA

【大樹】独立行政法人宇宙航空研究開発機構（JAXA、本部東京）は、町多目的航空公園で地上200メートルの係留気球にマイクをつるしてヘリコプターの騒音を計測する実験を行っている。周囲が静かで広大なスペースがある同公園ならではの実験。JAXAによると、気球を使った実験は国内では初の試みだという。

（松村賢裕）



JAXAはヘリコプターの低騒音飛行方式を開発するため、2000年から同公園で騒音測定実験に取り組んでいる。昨年は地上約50メートルの高さに

2基のクレーンを使ってマイクを設置し、その間をヘリコプターが通る方法で騒音を測定した。

今回は地上からの反響音を最小限に抑えるため、前回より高い上空約200メートルに計測機器を取り付けた気球（全長8メートル）を揚げて騒音を測定している。

実験初日の26日は、同公園のハンドリングエリア上空にヘリウムを入れた気球を係留。ヘリコプターが気球から水平に約200メートル離れた付近を飛

マイクを上空に設置するための気球と騒音測定用のヘリコプター

行し、データを集めた。実験は10月6日まで行われる予定。同日2日以降は気球を複数配置し、2点間への騒音の伝わり具合の特性を把握する。実験を統率するJAXA

総合技術研究本部飛行システム技術開発センターの石井寛一研究員は「昨年以上に良いデータが取れそう。騒音減退モデルの開発の参考にした」と話している。